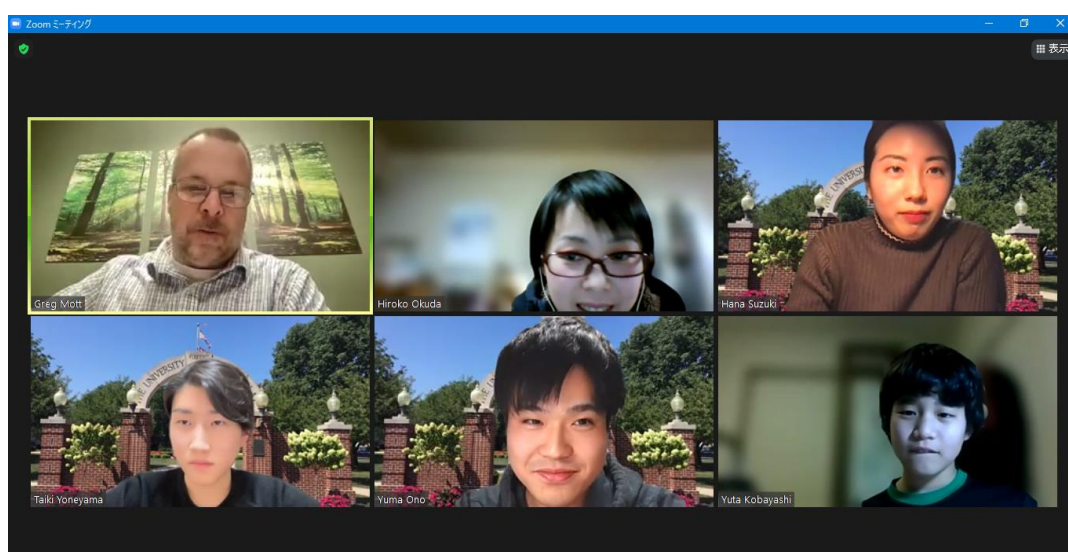


こんにちは！OSGSプログラム後期メンバーの小林優太です。この最終レポートでは、OSGSプログラムの活動内容を、自分自身の経験をもとにまとめました。僕が紹介したい活動は主に4つです。

1 アメリカの大学の授業

OSGSプログラムでは、グレッグ先生の授業を受けます。この授業は学生自身のコミュニケーションを大切にし、フィンドレー大学でのシンポジウムに向けてスライドやプレゼンテーションの仕方などを教えてもらい、伝える力を養いました。



僕が印象に残っている講義の内容は、参考文献の掲載方法についてです。参考文献をプレゼンテーションで発表する際、文章として書く場合と発言する場合とは、提示の順番が異なるそうです。

2 シンポジウム

日本時間の午前2時（アメリカ時間の昼）にシンポジウムが開かれました。僕は2000年代のアメリカの音楽がどのように社会情勢の影響を受けてきたかについて発表しました。このような大学での正式なプレゼンテーションは初めてだったので、とても緊張しましたが、何よりも楽しむことができました。Zoomで行われ、眠くなることもなく、まるでその場にいるかのような臨場感に包まれました。

しかし、後悔することが一つありました。それは、最後の質疑応答の際に答えることができなかったことです。その問い自体に対する答えは後に見つかりましたが、対応力に欠けていました。グレッグ先生は、質問に対する答えが見つからなくても問題なくて、「それは良い質問です。それについてもっと研究していけば面白いと思います。」といった答え方もあり、とおっしゃっ

ていました。この悔しさをばねに、自身の英語力、コミュニケーション能力を磨いていきたいです。

3 パートナーとの活動

OSGS プログラムでは、メンバー一人ずつにフィンドレー大学のパートナーが配置されます。僕は週 1 回 ZOOM を使って互いの国の情報交換を行っていました（普段は LINE で話していました）。3 月末、4 月初めに家や近所をビデオまたはライブで紹介する Introductory tour というものをしました。僕にとっては初めての動画作成でした。iPad で意外と簡単に動画を作成できることが分かり、良い経験となりました。自分が作って面白いのはもちろんですが、相手にとって面白いと思ってもらえることが大切だと思いました。アメリカの人と話して、やはり言語の差を感じました。発音から文法、英語独特のリズムなど、現地の人と話してこそわかる、言語の差を感じました。しかし、優劣などの話ではなく、とても貴重な体験だったということです。こちらが話しても十分伝わりますし、文法ミスをしてしても全く問題ありません。あちら側で解釈してくれます。グレッグ先生は、「ネイティブたちもミスをするんだ。ミスは気にしない。」とおっしゃっていました。

4 埼玉県親善大使の活動

OSGS プログラムでは、このプログラムに参加すると同時に、埼玉親善大使を委嘱されます。そして、埼玉の魅力を発信するべく埼玉ならではの施設や場所を訪れました。

埼玉県親善大使として、ふじみの国際交流センターを訪れました。そこでは、日本に来日した外国人の方に日本語を教えたり、相談に乗ってサポートをしたりしています。ビザや、日本語検定、国籍など、外国人の方が日本で住むにあたっての大変さを学びました。例えば、職場でのいじめや、薬物犯罪への誘いなど、悲惨なケースも聞きました。外国人の方が日本に住むにあたってこんなことはあってはいけないと思います。その方はふじみの国際交流センターの方たちが悲しむだろうと思い、ふみとどまったそうです。ふじみの国際交流センターに通っていたおかげで最悪のケースは免れたと思います。外国人の方にとって「つながり」が育まれる大切な場所だと考えました。

また、タイ人の方に日本語を教える手伝いをさせてもらいました。改めて日本語というのは難しいということを実感しましたが、人に教え、支えあう大切さを学びました。非常に貴重な体験でした。



また、埼玉親善大使の活動の一環として、成果発表会がありました。まず感想としては、追いつめられるほどに緊張しました。しかし、同時に良い経験であったと思います。プレゼンテーションが終盤になると、緊張が和らぎ、自分自身のプレゼンテーションを発表することを楽しんでいたと思います。グレッグ先生の授業で、「プレゼンテーションを何回も繰り返して、経験を積み重ねていくと、どこかのポイントで、まったく緊張しなくなる時が来るよ。」と伝えられたことを思い出しました。このプログラムは、自分のあらゆるポテンシャルを思いがけないところで引き出してくれるのではないのでしょうか。

さて、そのような OSGS プログラムの活動を進めていくなかで、自分が前回のレポートよりできるようになったのは、

- ・より積極的に活動に取り組めた
- ・プレゼンテーションを見越して、授業の宿題にしっかり取り組めた
- ・日米両国の音楽の特徴を探っていくなかで、そのつながりや関係に気付けるようになった

ということです。特に最初の項目である、「より積極的に取り組めた」は、このプログラムの醍醐味とも思います。僕は、このプログラムに参加するまでは、何をやるにも消極的で、親の支えがなければ何も自分からスタートさせることができませんでした。しかし、このプログラムを親に教えられて、自分の意志をもってやろう！と思えたことがきっかけで、積極的に物事に取り組めるようになったのだと思います。

また、できなかったことは、

- ・シンポジウムでの質問への回答
- ・プレゼンテーションの見せ方へのこだわり

です。

このように、OSGSプログラムは、英語のレベルはもちろん、あらゆることに対する意欲や向上心を高めてくれます。そして、自分の足りないことは何か、まだやれることはないか考えるチャンスにもなります。僕はまだまだ課題は残っていますが、これまでの努力と達成感、このプログラムで得たものを糧に、頑張っていきたいと思います。しかし、先日OSGSプログラム成果発表会で奥田さんが言っていたように、まだこのプログラムは終わっていません。僕たちは、これからも連絡をとりあいますし、機会があれば、またどこかへ赴いて埼玉の魅力をもっと深く知るのかもしれない。

最後に、このプログラムを企画・実施してくださった皆様、ありがとうございました。

